

社会システム研究科 文化・言語専攻（比較文化領域） 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会システム研究科文化・言語専攻（比較文化領域）は、以下の能力を有すると認められた者に修士（比較文化）の学位を授与します。

■ 高度な専門的知識・技能

- 比較文化に関する高度な知識を身につけている。
- 専門的職業人や研究者として、国際社会に役立てる高度な技能を身につけている。

■ 高い問題解決能力と表現力

- 高度な文化理解と分析力を持つ専門的職業人や研究者として、課題を発見し問題を解決する高い能力を身につけている。
- あらゆる資料を駆使して適切に分析し研究するための高い思考・判断・表現力を身につけている。

■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

- 高い倫理観に基づき専門的な言語・文化知識を生かして、相互理解を促進するコミュニケーション力を身につけている。
- 国際社会が抱える課題と主体的に取り組む自律的行動力を身につけている。

社会システム研究科 文化・言語専攻（比較文化領域） 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会システム研究科文化・言語専攻比較文化領域では、修了判定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

（編成の方針）

- 1 比較文化領域は、文化と言語に係る専門知識と能力を涵養し、深い洞察力と広い視野を持つ人材の養成及び高度な専門職業人及び研究者の養成のため、順次性、体系性のある教育課程を編成する。
- 2 教育課程には、比較文化の視点から論理的に考察する力、およびコミュニケーション力を養成しつつ、自身の考えや判断を効果的に表現できる力を養成するため、共通して備えておくべき能力を養成するための「専攻共通科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「特別研究科目」の4つの科目区分の科目を配置する。

（教育課程の構成）

※（）は修了に必要な単位数で、修了要件単位数 30 単位の内訳

文化・言語専攻比較文化領域の教育課程は、編成の方針に基づき、「専攻共通科目」(2)、「専門基礎科目」(6)、「専門科目」(6)、「特別研究科目」(8)で構成する。

- 1)「専攻共通科目」(2)は、現代の社会システム全般を対象として取り上げ、多領域的な視点からアプローチしていくことを学ぶための科目を1年次に配置する。
- 2)「専門基礎科目」(6)は、比較文化、日本文化、日本語への深い知識を獲得し、複眼的視野から探求していく高度な能力を養成していく科目を1、2年次に配置する。比較文化領域の提供科目から少なくとも6単位以上を修得する。
- 3)「専門科目」(6)は、比較文化領域に関する専門知識や能力を修得させるための科目を1、2年次に配置する。比較文化領域の提供科目から少なくとも6単位以上を修得する。
- 4)「特別研究」(8)は、自ら研究課題を設定し研究活動を遂行できる創造力、自立力を養成するために、指導教員による個別指導を受ける必修の科目を1、2年次に配置する。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループワーク、プレゼンテーションなど、能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、

適切な学修時間の確保を促す。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果等によって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認められた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 修了するためには、所定の科目を含めた 30 単位以上の修得、必要な研究指導を受けた上で、学位請求論文等の提出を必要とする。
- ・ 学生の授業評価等を実施し、各科目での学生の理解度や授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。

社会システム研究科 文化・言語専攻（比較文化領域） 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

社会システム研究科文化・言語専攻（比較文化領域）は、次のような人を求めます。

求める学生像

- 言語、文学、思想、文化などの専門分野の研究を目指して、国際社会における異言語・文化間に架橋できるような広い視野を具えようとする人
- すでに積み上げた一定のキャリアを一層専門的に向上させ、大学・短大などの教員または各種の研究施設の研究者を目指す人
- 言語・文化に関する一定の知識を有し、グローバル化する世界情勢に対応するため、日本語・日本文化のみならず英語、中国語などと自国の言語・文化との比較研究を行いたい学生および留学生

求める能力

【知識・技能】

- ・ 比較文化、言語、日本文化についての専門的研究に必要な基礎知識を有している。
- ・ 日本語・英語に基づいたコミュニケーション能力と資料分析に必要な語学力・分析力などの基本的技能を身につけている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 比較文化、言語、日本文化の分野における様々な課題を解決するための思考力・判断力を有している。
- ・ 研究活動を通じて得られた成果を、論文・学会などで適切に発表する表現力を身につけている。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

- ・ 研究者としての自律的な主体性を持って自らの研究に取り組むことができる。
- ・ 地域社会や学会の多様な人々と協働して問題の解決に取り組む素養を持っている。